

豊富な巡回診療実績

AMDA活動報告

救える命があれば

どこへでも

□13□

菅波 茂



最小のカンボジア支部

年少の三十九歳で、弟分としてかわいがられてい

る。いつもはクメール特有の温和な顔だが、決意するときは真剣なまなざしになる。彼が八歳の時にカンボジアはポル・ポト政権となり、祖父が州知事をしていたので彼の一族は農村に追いやられた。一日の過酷な労働後の夜は、ヤシの下で地面にそのままごろ寝をしていたという。彼はあまり当時のことを話しながら見つらいのだろう。

カンボジア支部はプノンペンにある診療所とコムは、飛行機の中で既に

ンボンスピー州で巡回診療を実施している。診療所は貧しい人たちが対象だが、努力のかいあって赤字にはなっていない。カンボジアではいまだに交通事情が悪く、病人といえども容易に医療機関で受診できない。まだまだ巡回診療が必要なのである。

パンダアチェの被災地では医療機関も交通機関も壊滅状態だった。医療を必要とする被災者には巡回診療しか方法がなかった。巡回診療にかけてはスペシャリストであるカンボジア支部医療チームは、飛行機の中で既に

活動経験 被災地で生かす



計画を練っていた。

数少ない避難所に子どもたちの集団ができる

と、麻疹やポリオなどの伝染性疾患が流行する可能性があった。国連機関のユニセフから被災地で活動しているNGOに子どもたちへの予防接種の協力を要請された時に、彼らが頑張ってくれ

たことはいうまでもない。

カンボジア支部医療チームは、自国内で二度又コン河洪水緊急救援活動を経験しているが、初めての海外派遣は、一九九九年に発生したメコン河氾濫によるベトナム洪水被災者救援活動だった。本部もベトナムには外交

スマトラ沖地震の救援活動で子どもたちにワクチンを接種する派遣医療チームとして、ベトナムに何となく圧迫感を感じている様子がかがえるカンボジアの支部が、ベトナムの被災者のために勇躍出張してくれた気持ちを実感した。

「救える命があればどこへでも」。AMDAのスローガンである。裏付けとなる「困った時はお互いさま」という相互扶助精神は、助け合っている過程でますます強くなる。AMDAカンボジア支部は最も小さな支部。ここまで成長してくれたことに心から感謝する。

AMDA (アジア医師連絡協議会) 理事長
この連載は毎月第四日曜日に掲載します。